

YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第4号 令和8年3月6日発行

2月19日に第3回学校運営協議会が行われました。各学部の今年度の取組を報告し、第2回学校運営協議会の熟議を受けて、今後に向けての具体策を委員の皆様と協議していただきました。今回は学校運営協議会の様子と委員の皆様からの年度末アンケートについてお知らせします。

第3回学校運営協議会

今年度の各学部の取組

- | | | | | |
|-----|---|---|--|---|
| 小学部 | 水泳教室、音楽教室、英語教室、体操教室、サッカー教室、野球教室、ネイガーとの交流等、地域の人材を活用することで児童の思いや願いを基にした学習を実践できました。 |  |  |  |
| 中学部 | 浜ノ町町内会の方々とのゆり花壇整備、子吉川花いっぱい活動、作業学習製品販売会(道の駅にしめ、道の駅象潟、道の駅おおうち、イオンスーパーセンター本荘店)などの地域での活動や地域の中学校との同世代交流を積極的に行いました。また、ヒップホップダンスやこけしづくり等の外部講師の活用は、生徒たちにとって効果的だったため、今後も積極的に活用を推進していきます。 | 体操教室 | ヒップホップダンス教室 | ゆり花壇整備 |
| 高等部 | 学年ごとに菅蒲音頭や天神あやとり等の地域の文化を地域の方から学んだり、作業学習製品販売会や花いっぱい活動、太鼓演奏会、除雪ボランティア等の交流をしたりと今年度も数多く実施できました。今後も、地域応援活動や生徒主体のアンテナショップ運営を継続していきます。 | | | |
| 寄宿舎 | ブラウブリッツ秋田や由利高校書道部との交流、余暇活動で地域の道の駅や医師会病院の売店、ナイスアリーナなど地域の施設へも出掛けました。今後も交流を継続していきたいです。 | |  |  |
| | | 寄宿舎のナイスアリーナ利用 | | 作業学習製品販売会 |

協議「ゆり支援の子どもたちの充実した生涯学習のために私たちができること」

前回の熟議で出た意見を実現するために、より具体的な解決方法について、3グループに分かれて協議しました。現実的な具体策をたくさん出していただき、ありがとうございました。次年度の教育課程に反映できるよう、校内で再確認していきます。

<地域ができること>

- ・ボランティアサークル等がコーディネーターとなり生涯学習ネットワークの運営を担うことで、登録すると地域の情報をいつでも得られるようになるのではないかな。
- ・イベント開催の場として、学校、民間の店舗、空き店舗等を活用する。
- ・移動の難しいケースは、福祉バスを利用することができれば解決する。
- ・卒業後、家に居たい人、外に出たい人など、ニーズは様々である。外に出たい人を集めて、みんなで何をするか考え、相談する場が必要。「〇〇会」のようなものを作り、組織化してはどうか。

<学校ができること>

- ・市からの案内を学校が在校生へ伝えることで地域の情報を得る工夫をする。
- ・在学中に市の広報やホームページの読み取り方を学習する。
- ・お金の学習や余暇活動につながる様々な活動を在学中に親子で一緒に学ぶ機会を設定する。
- ・在学中に一人暮らしのシミュレーション等を行い、給料の使い道、お金の配分や相談スキル等を学ぶこと、困り感への気付きと解決に向けての行動を学習しておく。



キーワード 「学習活動を生かした情報収集能力の育成」



キーワード 「親子で学ぶ」



キーワード 「社会に出る前に学ぼう」

学校運営協議会委員の年度末アンケートより

(1) 学校運営協議会の回数について

- ちょうど良い(12) ○増やした方が良い(0) ○減らした方が良い(0)

(2) 学校運営協議会の活動内容等について

- 来年度も今年度と同様の活動内容で問題ないと思う。
- 授業をじっくり見てみたい。例えば、授業参観の希望を取り、授業を見せてもらえないか。
- 県内の支援学校で唯一の、CSとして機能している学校運営協議会として、様々な方々に参画していただき、その意見を学校運営やPTA活動に反映できている。特に、熟議を通じて、それぞれに異なる参画者が意見を出し合うことによって、学校内部や保護者の視点だけでなく、外部の様々な角度から、意見をいただけることが素晴らしい。
- 学校運営協議会の回数だが、ゆり支援の学区は広域なので、多くても年3回が限度かと思う。協議会の委員に、町内会長とともに主任児童委員を加えても良いのではないかと。福祉支援課長が委員に入っているが、役所には異動があり、障がい児者に、実際に民生活動で携わるのは、地区民生児童委員協議会だから。
- 9月の熟議で協議した内容について、2月の協議会で再度話題にして討議することで内容がより深化し、理解を深めることができて良かった。

(3) 熟議について(今年度は9月の1回、2月に協議を1回)

- ちょうど良い(11) ○増やした方が良い(1※年2回程度) ○減らした方が良い(0)

(4) 熟議についての感想や意見

テーマ「ゆり支援の子どもたちの充実した生涯学習のためにわたしたちができること」

【熟議のテーマ等】

- 熟議をしていく中で、学校でできることと地域でできることに少しズレがあると感じた。卒業してからの生活を考えることも大切だが、在学中からの地域とのつながりをもっと深めるにはどうしたら良いかを話し合う場があっても良いのではと思う。
- 今年度の熟議のテーマは、比較的知的発達の遅れの度合いが軽度の生徒達にとっての生涯学習を考える点においては有意義であると思われるが、本校においては、そうした生徒達だけでなく、様々な特性を持った生徒達がいるので、より包括的なテーマにするか、同じテーマでも、発達の度合いに応じてケース・バイ・ケースに、様々な異なる意見を出し合える様な熟議の構成だとより有意義なのではないか。
- 今年度、9月に生徒と語り合えて非常に有意義だったし(本来のCSの熟議の姿ではないかと思った)2月には、あらかじめ9月の熟議を受けた課題が示され、課題意識を持って参加出来て良かった。2回目の熟議で、より具体的な方向性が見えてきたと思う。
- 生徒の声を直接知る機会がある事は、良いことであり、大事だと思う。

【熟議の回数】

- 今年度の熟議は、9月の1回とされているが、3回目の協議も熟議にあたるのではないかと。「質疑応答」の後半では、委員から意見・感想をもらったが、多くの方は熟議で意見を述べているため、熟議で発言していない方々をお願いする形が良い。



第1回学校運営協議会
「高等部授業参観」



第2回学校運営協議会
「生徒の実践発表」



第3回学校運営協議会
「協議 キーワードの発表」

(5) その他(自由記述～委員として学校に関わって良かったことなど)

- 人口減少下においても、支援学校の入学者は増加している。CSの役割も重要度が増すと思われる。
- 委員として参加する事により、様々な社会的資源の活用の仕方に改めてもらうことができた。また、ゆり支援に対する外部からの視点を知ることや、参画してくださる他の委員の方々とのつながりができた事は、非常に有意義であった。
- 参加者が学校のために何かできることはないかと皆で考える機会となり一体感が生まれたように思う。当センターは、学校や地域とのつながりをより強化していきたいと考えている。
- 障がい児者は、初めての場面や大勢の場面では参加に気後れしたり、指示が飲み込めなかつたりする様子が見られる。そんなとき、サポートに努めたいと考えている。2月の熟議を受け、手話通訳者のように要請があれば、ボランティアで障がい児者の社会参加をサポートする組織をつくれぬものかと考えている。
- 卒業後の就職実現等、活躍できる場の確保に向け、皆様との連携を深め取り組んでいく。